



長いもツルの軟化、崩壊を促進。
ツルが絡まったネットの処理に
困られている農家様へ！

植物繊維分解酵素入り資材

「酵素の効果」

コンタクトレンズ製造メーカーとして知られるメニコンが開発した「酵素の効果」は、同メーカーの福わら分解促進材「アグリ革命アクア」に続く、酵素資材です。植物残渣を分解する3種類の酵素を厳選して配合。収穫後の悩みである、ネットに絡まった長いもツルの処理を楽にします。



株式会社メニコン

メニコンの酵素資材
第2弾
長いもツルの処理に
効果を発揮

長いもツルが絡まったネットは収穫後の大きな悩みの種です。ネットに絡みついたツルは外そうとしてもなかなか外れず、自然分解に任せると時間がかかってしまいます。環境への配慮から野焼きは禁止されているので、廃棄する場合は廃棄物として処理することになりますが、ツルがネットに絡みついたままでは廃棄物処理費がかさんでしまいます。

この問題の解決に役立つのが「酵素の効果」です。東北地方で長いもに対しての使用試験が行われ、効果が認められて商品化された酵素資材です。

厳選した3種類の
酵素を配合
水で希釈できる
液剤タイプ

「酵素の効果」には3種類の分解酵素を配合しております。これらの酵素が植物の表面層を破壊し、植物組織を崩壊さ

せ、セルロースを溶解して長いもツルの分解を早め、ネットからの分離を促進します（写真1、2）。
「酵素の効果」は液剤で、ボトルは1本500ミリリットル入りです。これを水で希釈して散布してください。希釈倍率は自由ですが、1本1000〜2000リットルの水で希釈するのが目安です。1本のボトルで、約10アール分の長いもツルを処理できます。
「酵素の効果」は今後さらに試験を進め、他作物への使用や処理方法の拡大などを検討していきますので、引き続きご注目、ご活用いただければ幸いです。

■写真1 使用効果



「酵素の効果」を散布したネットの写真です。長いもツルとネットが分離しやすくなっています。

■写真2 比較試験

「酵素の効果」を散布したネット（写真右）と、何も散布していないネット（写真左）の比較写真です。拡大写真を見てもわかるように、散布したネットにはツルがほとんど絡んでいません。

使用方法

- 長いもツルの残渣に、消雪後なるべく早めに散布します。（春の散布をおすすめします）
- 10アール分の長いもツルに対し、本製品1本を水で希釈して散布します。（目安は100〜200L）
- たい積物に浸透するよう、まんべんなく散布します。
- 窒素成分を同時に散布することでさらなる効果が期待できます。（尿素2kg程度）
- 散布後に酵素の活性化を高めるために、ビニールシートをかぶせ、温度を高めるのがおすすめです。（5月末頃まで）
- 秋にネットのみを取り出します。



▲未散布ネット



▲散布ネット